

第3回土生町史跡探訪講座

竜王山より（撮影）



平成24年1月16日
土生公民館

第3回土生町史跡探訪講座

土生公民館

H24.1.16

この講座の資料は、森本 繁著 浪速社 瀬戸内しまなみ海道「歴史と文学の旅」・因島文化財協会の「因島史跡散歩」「土生村風土記」を田中 稔著「因島史考」を参照・引用させていただきました。ありがとうございました。

1. 釣島箱崎浦合戦の供養堂について



鶴島



江の内公園の松・木碑
(祠は台風のため壊れたそうです。)



釣島箱崎浦
の合戦跡の
木碑

鎌倉時代因島開発名主は上原(かんのほら)祐信でありましたが、南北朝の始め元弘3年(1,333)元弘の変で京都の六波羅探題攻めに参加したが子息以下多くの郎党が戦死して、遂に絶家の運命に立ち至りました。その後北朝方、伊予の今岡通任(みちとう)が押領して武家方となりました。

天授3年(1,377)長慶天皇の命を受け、村上師清が信州更級から兵を連れて下向し、今岡勢を破りました。これが天授3年霜月15日の釣島箱崎浦の合戦です。この戦いで、双方の戦死者を供養するために建立されたと伝えられています。村上師清方の戦死者は上諏訪神社(通称明神社)に、武家方、今岡通任方の戦死者は、釣島(鶴島)の北端東側の下諏訪神社(通称稲荷神社)に祀ったと伝えられています。また、この戦いに敗れた今岡氏の子孫は河野一族であるところから、今岡と河野から1字ずつとり岡野を名乗り、田熊町中心に住み現在にいたっていると言われています。

現在鶴島には、合戦で戦死した人たちの者と思われる一石五輪塔が数基あると伝えられています。

(ア) 箱崎の明神社(上諏訪神社)明神さん：江の内児童公園内

(イ) 鶴島の投錨神社(下諏訪神社)投錨稲荷さん

(ウ) 釣島箱崎浦の合戦場(南北朝)天授3年(1,377)

今から60年ほど前だと思いますが、戦没者の供養のため一石塔の調査を行った際、鶴島の投錨稲荷近くの山裾に、淋しく2体の石塔が残っていたのを発見されたそうです。600年ほど前の昔が偲ばれていました。



箱崎の明神社(台風で壊れました。)



鶴島の投錨神社

1

投錨神社の中のお稲荷さん



投錨神社横の小さな祠



2. 恵比寿(蛭子)神社について



蛭子神社と
常夜灯



蛭子神社の
正面側の社



お菊地蔵



龍神さん

箱崎集落のシンボル蛭子神社。この神社も大正時代から前後3回者社地を変更されて現在に及んでいます。創建は詳しくはないが、社前に文政期に網元鯛屋が建てたと言われ伝えられてる常夜灯が残っています(照煌)。

祭神の蛭子(戎・夷・胡・恵比須・恵比寿)は七福神の一つで海上漁業、商業などの守護神であるそうです。従って漁業を生業とする人達は蛭子を深く信仰しこの地(箱崎)に蛭子を祭る神社を建てたと伝えられています。蛭子神社の例祭は旧暦の11月3日で漁師の人達はこの日には出漁している漁船は全部箱崎に帰ってまつりに参加したそうです。当日には神輿が出たり、余興として相撲や、櫓漕ぎ競争もあったそうです。

3. 猫神について

市民会館登り口東口に元橋酒店ありますが、その東へ10分程行くと左に入る道があり、5分程入ると右側に稲荷さんの前に猫神という石柱があります。因島では珍しい神様だそうです。猫は犬と共に人間に最も近い家畜であり、補鼠(ほそ)目的のために飼われ、漁師の人たちは、天気も予想すると言われ雄の三毛猫を珍重したそうです。招き猫など福神的信仰もあるそうですが、その習性の不気味さから、魔物と考えられることも多かったそうです。

沖縄先島地方では、猫をマヤと呼び、神の使いとして恐れ、特に黒猫は忌まわれたそうです。石垣島もマヤ神が訪れる行事もあるそうです。

漁師は猫の前で弾丸作りをするなどが、山中でマガリ、トリスケ等の山言葉を用いて猫を忌み、猫は返し戸(開けた戸を猫自ら閉める)をするほど長く飼うなどいわれ、老猫は人語を解し、人の動作を真似るとも言われ、赤ん坊の寝間に猫を入れるなどが、特に葬送に関しては、死者にシヨウ(生)を入れ蘇生させると言われ、蔵などに押し込められると伝えられています。

「明月記」には「目は猫のごとく、その体は犬のごとく長し」とあり、猫はその眼光や習性の不可思議さから、魔性のものと意識されているそうです。仙台湾の網地島では山猫を、お猫さまと呼び、ひどく恐れカツオ、マグロ等の初物は、まずお猫様に供えたとも言われています。また、三毛猫が後ろをかけば、10日間晴れが続くとか、前足をなめて頭をこすると雨がふるとか言うことは、猫の挙動を観察しての俗信であると思われます。何にしても猫の様に生死に関わらず、その霊力を発揮する動物も珍しいと言われています。従って、猫の霊力を信じ漁師達は特に雄の三毛猫を珍重し、天気も予知する神として、祭ったものが猫神だと言われています。



猫神さんの
碑



祠と祠の中
の猫



4. 箱崎のお烏喰神事(おとくいしんじ)と田熊

神前への御供を、先にカラスに食べさせるという神事と田熊八幡宮について。

天文年(1,532年から1,555年まで)中に箱崎海岸に神鏡が流れ着き、これを田熊亀甲八幡宮の社に奉祀(ほうし 神仏・祖先などをつつしんでまつること)され、以後因南三村(田熊・土生・三津之庄)の氏神として奉祭するようになったとされています。

毎年秋の例祭には、お烏喰神事がこの地で行われるといわれています。神鏡には「奉懸ける宇都宮大明神大前永享2年(1,430)4月朔日西園寺政所と記す」田熊八幡宮、天正18年(1,591)の棟札によると次の如く記されているそうです。

表 大旦那 村上敬吉 大旦那 村上直吉 大施主 村上源右衛門

裏 還宮導師明德寺大僧都法印肴儀



箱崎の波戸の碑

5. 因島のミサキ信仰について

この神さんはたたり神で非常に激しい性格の神さんのことだそうです。

因島では七人后(ミサキ, キサキ)又は七人岬というのがありますが、鶴島の西端にトウビョウさん(イナリさんとも言われているそうです。)が祀られて、七人ミサキともいわれているそうです。因島漁業の前の波戸や沖側の波戸の入り口西浜龍神と並べて祀っています。また、對潮院の六地藏さんのところにもあるそうです。



七人岬 因島漁業会館前



西浜龍神 天保5年西浜組中 埋立沖側入り口

6. 長源寺跡について 土居の大屋敷跡と一石五輪塔

長源寺のあった付近が「お土居」と呼ばれていたことから、因島本主治部大輔法橋善鑑入道の居館があったのではないかとされているそうです。そして上原（かんのほら）氏の持仏堂が長源寺で、耳明神社（別名 耳護神社 みみご）は長源寺の守護神であったのではないかとこの説があります。

長源寺は、村上氏の菩提寺であったそうですが、天正5年(1,577)10月28日に焼失し、荒廃していたのを寛永2年(1,625)に金蓮寺覚裕房が中庄にこれを引き、万治2年(1,659)海雲山長福寺と改称し三原香積寺5世茂庵樹繁（もあんじゅはん）を招じて開山としたと言われているそうです。当時のものとしては、西側に長さ50^歩の野面積みの石垣が、また長福寺にここより移したと思われる宝篋印塔の残欠が3基残っていたそうです。

因島本主治部大輔法橋善鑑入道 上原祐信の居館土居館跡
 上原祐信は元弘の変(1,333)で京の六波羅攻めに参加上洛し運悪く子息郎党一族戦死して遂に絶家となります。功により元弘3年大塔の宮の令嗣を賜る。備後の国因島本主治部大輔法橋幸賀館」と記されていたそうです。

土居の旧道は郷串畑方面より田熊村に通ずる主要海岸線であったと言われています。中世室町期頃この一帯は因島の開拓者上原祐信の居館跡と思われ現在でも屋敷又は大屋敷とも尚お土居とも呼ばれているそうです。後世の居住者の名を取って、多治兵衛屋敷とも伝えられているそうです。（土生町江の内区土居）



長源寺谷に
遺る石仏
3界万霊仏
と地藏さん



長源寺谷跡



土居の旧道
附近



7. 島前城跡について

島前城は、昭和46年5月1日旧因島市の史跡に指定されました。城郭は、標高20㍍余りの丘の上にあります。本丸を中心に南北各一つの郭よりなっていたそうです。城は天授3年(1,377)村上師清によって敗れた今岡四郎左衛門尉直吉の居城であったと伝えられています。当時のものとしては、本丸南西側に犬走りがあり、長さ10㍍の石垣が残っているそうです。また、鎌倉時代奥州の藤原泰衛の子康高が承久の乱(1,221)後のがれて来て、ここに居を構え、姓を巻幡と名のり帰農した所でもあり康高の碑が建っていたそうです。現在は對潮院の裏の山門の方にあります。

承久の乱(じょうきゅうのらん)は、**鎌倉時代**の**承久3年(1,221年)**に、**後鳥羽上皇**が**鎌倉幕府**に対して討幕の兵を挙げて敗れた兵乱である。**承久の変**、**承久合戦**ともいう。**武家政権**である**鎌倉幕府**の成立後、**京都**の公家政権(**治天の君**)との二頭政治が続いていたが、この乱の結果、幕府が優勢となり、朝廷の権力は制限され、幕府が**皇位継承**などに影響力を持つようになる。「ウィキペディア (Wikipedia): フリー百科事典」より



島前城跡の芸予情報文化センター



對潮院にある藤原康高の碑

對潮院にある巻幡家祖先奥都城の碑



8. 竹島城跡について

城は、島前城主であった村上四郎左衛門尉直吉の居城と伝えられています。おそらく島前城の前衛として築かれたものであろうと思われます。島の東側、城郭への上り口に、船を係留する穴が3つ見られます。この洞窟は、戦いの時に逃げ込んだ後、汐が満ちてきて倒れた兵士の悲話も語り継がれている話もあります。また、頂上南西側の隅に、直吉の墓と伝えられる径1㍍程の台石が残っているそうです。また、地主浜岡弘氏(故人)の奉納された備中稻荷神社の祠があるそうです。現在、城郭の跡は一面竹が繁茂し、竹島の名にふさわしい状態になっています。



竹島城の竹島(亀島)



重ね岩
(龍神さんが住んでいると言われていました。)



城郭への上り口方面



洞窟

9. 竜王山(地王山)

竜王山，また，地王山とも呼ばれていますが，竜王山は昔から雨乞いの山として各村々にあり，昭和30年頃まで雨乞いの行事が行われていましたが，その後こうした行事は消えていきました。

土生町文化財だより 第5号より

石鎚神社祠寄進者刻銘記

奉寄進酉歳 浅松吉五郎孫助，仁三郎，長太郎

岩吉友三郎， 助，治三郎，寅次郎，三郎，長太郎， 平太

辰三郎，伊三郎，太五郎，孫吉，

鹿松，万五郎，岩五郎，五郎，高松，与市郎

享和元酉八月吉日 石鎚神社



竜王山から生口島方面の遠望



竜王山山頂の祠



頂上付近の大岩群



竜王山山頂の祠



明徳寺の山四国霊場の、67番大興寺から74番甲山寺までの8霊場

10. 元土生ふれあいプラザについて

戦後この地に、漁業者の家族で、小学校に行く児童については、この地に湊学寮という寮を作り、子供を預かる施設がありました。然し、漁業者の家族も次々と住宅を建てて行くので、児童も家庭から通学するようになったので、この寮も廃止となり、当分放置されていました。

平成4年4月1日に土生ふれあいプラザが発足しました。その後、平成23年4月からは、ふれあいプラザも廃止になっています。



元ふれあいプラザ

11. 谷多地蔵尊について

この地蔵尊は村四国の番外の札所であって、建立の由来はよく分かっていませんが、谷多の名があるので、谷多家にかかわるものであろうと思われます。因島には谷多家は土生町に数件しかないそうです。元は大山神社から、湊橋の方へ50㍍程行った左側に写真店がありますが、その裏に谷多家があります。

旧土生中学校の建立までは、この地蔵尊は中学校の校庭の真ん中に有ったもので、初めから平地ではなかったそうです。現在の旧土生中学校は昭和63年9月に新校舎が完成し、平成22年3月に廃校となっています。



祠と
谷多地蔵尊



12. 大山神社について

宝亀4年(773)創建され、因島最古の神社で、「日本三大実録」の隠島大神とはこの社のことと伝えられています。昭和8年には境内から弥生時代の須恵器・高杯が発掘され古代祭祀の社と伝えられています。中世村上水軍の守護神として、崇敬され文明年間(1,469～1,487)土生長崎山の城主村上新左衛門吉充が一太刀を奉納しており、全国でも珍しい鎖カタビラが現存していると言われているそうです。



大山神社境内の内の社

- (1) 大山稻荷神社
- (2) 鍛冶神社
- (3) 御縁神社
- (4) 大国主神（おおくにぬしのかみ）
- (5) 建御名方神（たてみななかのかみ）
- (6) 事代主神（ことしろぬしのかみ）
- (7) 蛭子神（ひるののかみ）
- (8) 幸守神社（さちもりじんじゃ）
- (9) 大物主神（おおものぬしのかみ）
- (10) 小彦名神（すくなひなのかみ）
- (11) 住吉神社
- (12) 猿田彦神（さるたひこのかみ）
- (13) 導之神（みちびくのかみ）
- (14) 匠神社
- (15) 大山昨神（おおやまくいのかみ）
- (16) 須佐之男命（すさのおのみこと）
- (17) 耳明（みみご）神社



手水鉢
「奉寄進 享録三年八月當村氏子中」と記されています。



大山神社内の社（本殿の裏側）

耳明(みみご)神社

耳を護る神,元市民会館に昇る石段の中程右側に楠の大木あって,その側に祭られていました。市民会館完成後は芸予文化情報センターが出来るまでは,この場所に藤原泰高の墓とともに祭られていました。



耳明(みみご)神社

天神社・串畑谷

串畑谷は昔,刀鍛冶がいたので,鍛冶屋谷とも云われ現在でも時々附近の畑より鉄滓(てっし・てっさい)(砂鉄屑)が出土し古時を物語っています。これは天授3年の釣島箱崎浦の合戦で勝利を収めた水軍村上師清によって,翌天授4年春三原より刀工兵庫助藤原正家を当串畑谷に招き祝賀の名刀を鍛えさせたのに始まるそうです。今より650年ほどの前のことだそうです。この天神社は現在大山神社境内に併祀されています。



天神さん

串畑谷と元天神社の跡

13. 青影落葉之神について

焼家谷の入り口に中陣屋の楠木があり，ここに祀られている石塔（笠塔婆）は，天授3年(1,377)村上師清（南朝方）が北朝方の将，因島の大將今岡通任（みちとう）の軍を釣島，箱崎浦の合戦で破り，今岡通任は戦死して，その墓であると言われてい

ます。
「青影落葉乃神」として祀られていることから，上記の合戦で戦死したかなり地位の高い武将なのではないか，と言われてい

ます。
墳墓は三庄五柱神社の境内にある王子塚と同じく積石の上の笠塔婆（凝灰岩）は非常に古い物であるが，後で作られた物と考えられています。また，この笠塔婆は小さな積石塚の上に建てられ，側らには樹齡600年余以上の空洞のある大楠の木が空高くそびえています。この墓が青景落葉之神と伝えられています。

文政10年(1,828)に對潮院山内及薬師堂再建の際にこの楠木の親木が資材として使用され，山門の扉板はこの余材で作られたと言われてい



中陣屋の楠木と石塔（笠塔婆）

14. 馬頭観音座像

磨崖馬頭観音座像 顔が3面ある観音像です。

土生町郷区竜王山麓の、焼家谷の大岩に、「明治5年(1,872)申3月吉日」と刻銘されており、高さは約2.6 ㍎、巾は約1.8 ㍎です。

焼家松之助氏の造立で、この観音石仏は、当時の焼家松之助さんが牛を使って石臼の製粉を業として使用されていた名残で、牛馬の安全と無事成長を願って建てられたものと言われています。



3面ある馬頭観音座像



第3回土生町史跡探訪講座コース

